

令和元年度（2019年度）

自己評価報告書

学校法人福岡保健学院
武雄看護リハビリテーション学校
看護学科

本報告書は、学校法人福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日

令和2年7月31日

学校長 太田 貞武

評価実施責任者

副学校長 笹田 秀子

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ① 教職員が自己評価を行う中で、学生教育並びに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は、本校の学校評価実施規定に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」、「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
笹田 秀子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科副学校長
野村 晋広	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
太田裕美子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科教務部長
坂本 清	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科教務主任
山崎めぐみ	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

3) 自己評価方法

令和元年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

- S：十分に達成している。（達成度が高い）
 A：達成している。（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
 B：達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
 C：達成が不十分である。（不適合がある、明らかに改善を要する）

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の受け入れ、募集
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

本校の教育理念は『人間愛と自己実現』であり、「人間の根本精神をあげ、一人一人の学生が人間愛の精神に基づき、看護の対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指す。さらに医療・看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していきような人を育てていく」としている。これは、福岡保健学院全体で統一されたものである。

また、学校のスローガンとして「夢叶う ころ豊かな医療人になるために」を掲げ人材育成の大きな方向性を示している。

教育理念は、学生・教職員に周知させるため、玄関に掲げると共に、常に学生が目にする学生便覧に明記している。学生便覧にはどのような学生を育てたいのか教育理念をもとに、教育目的、教育目標を明文化しており、実際の教育内容・方法に一貫して現れている。教育目標は学年ごと段階的に表現しており、ガイダンス等を活用し周知している。このことは学生も教員も教育理念・教育目標を常に指針として意識し、到達レベルがわかりやすくなっていることから、カリキュラム全体の目指すものに向かって進んでいく手立てになっている。また、「育てたい卒業生像」を明確にしているので具体的にイメージはしやすいと考える。以上は、学生便覧に明記するとともに、保護者会やオープンキャンパス、高校訪問等において説明している。

課題

地域、関係業界より信頼され、職員が誇りをもって職務に専念できるよう、理念・教育方針を機会あるごとに周知する。

今後の方向性、方策など

保護者会、オープンキャンパス、高校訪問等で、学校の方針を浸透させていくことを継続していくと共にホームルーム、始業式、就業式など機会をとらえて周知を行っていく。

小項目 Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目 I-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目 I-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

変化する社会の中でそのニーズがどのように変化していくのか情報をとり、未来に必要な資質とか能力をどのように養っていくかと常に検討している。

項目 II 学校運営**総括**

設置者の学校設立の意思のもと、年度ごとに福岡保健学院の方針を受け、看護学校 4 校の教育事業方針、重点目標が設定される。また、学校としての教育方針が学校長より示され、それらを受け、学科ごとに管理目標を掲げ、個人目標を設定し、計画立案、実施、評価（中間・年度末）を行っている。個人に関しては管理者との面接を適宜実施し、学校運営に関して意見をもらう場を設けている。学校教育における運営方針・計画について設置者・管理者・教職員の意思統一が図れており、学校運営会議・管理会議が意思決定会議として位置付けられ、最終的な意思決定がなされている。

情報システムについては、学事サーバーにて学事に関する情報管理を行い、業務の効率化を図っている。これまで問題は発生していないが、危機対応についてはマニュアルが作成されている。校内では共有フォルダを一括管理し、必要な資料やマニュアル等は活用できるようになっている。また、関連学校・病院のTV会議システムを整備し、時間の効率をはかられている。

課題

情報セキュリティに関しては、マニュアルや講義での周知だけでなく機会あるごとに、日々の関わりの中で注意喚起をし続ける必要がある。

今後の方向性、方策など

情報セキュリティについて、全職員の共通理解のもと、漏洩防止を徹底するために、教職員への教育を実施する。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

本校の教育方針・運営方針は、学校長より毎年 4 月に全職員へ伝えられ、周知されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生便覧の学則、運営組織図、委員会組織図に示されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

情報セキュリティの強化に取り組む必要がある。

項目 III 教育活動**総括**

教育理念に基づいたアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーを策定し、それに基づく体系的で組織的な教育を実施している。教育課程編成については、開校時申請された考え方の明確な根拠を提示し、教員間での共有が図れるように、年 2 回の教育研修(集中会議において)教育課程全体をとらえ位置づけを考え共通認識に努めた。基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野の5分野で構成されている。分野ごとにその位置づけを明確にしており、科目構成は積み上げ式で構成されている。科目の教授・学習目標については、各分野で科目ごとに、単位数、時間数、設定理由、科目目標、教育内容を明記しており、臨地実習については、実習科目ごとに実習目的、目標を明確

にしている。教科外活動については、行事・研修等それぞれに目標を定め、専門職業人としての人格形成を行っている。新型コロナウイルス感染防止対策のために、3月の教科外活動を中止とした。次年度に補えるよう検討する。

学生に対してはシラバスにて各科目の目標・内容を示すことで学びの支援につながっている。単位履修の方法は履修規定・シラバスにて明確に示されている。

カリキュラムとしては科目間のつながりや順序性において夏季集中会議で検討し、評価を実施した。適宜修正し実際の教育に反映させている。教授科目は教員の経験をもとに担当を決めており、専門性は発揮できている。

また、専門性を高めたり、新たな学びが出来るように自己研鑽として研修・学会への参加を励行している。教員は実際に専門性・教育力を高める多くの研修に参加し、教育活動に活かそうとしている。また、看護学校4校合同での教員研修として5月の学生支援研修や8月のアクティブラーニングの研修などに参加し、教育力を高める手立てがなされている。

実習の実施にあたっては、実習病棟に必ず1名は担当教員を配置し、学生の学びを指導者と共有し指導を行っている。実習の前には実習指導者会議を行い、実習目的・目標・指導方法の確認や学生状況などの情報を共有し、実習指導に役立てている。現在まで大きな問題はなく、実習指導者との調整も良好である。

資格取得に向けて、1年生より国家試験対策を計画的に取り組んでいる。3年次は、教科外活動の中に国家試験対策としての特別講義を計画し、実施した。

授業方法については一斉授業にとどまらず、能動的に学べるよう各教員がその方法を工夫している。5月に講師会議を開き、国家試験対策や全科目の授業評価について説明を行い協力をお願いした。授業評価は以前検討した評価表を活用し、教員だけでなく外部講師全員についても実施している。ただし、教員間での共有までは行っていないこと、また、各講師へのフィードバックについて確実に実施されていないので、検討していく必要がある。さらに、学生への質問紙による評価のみならず、多様な評価の在り方の検討も課題である。

実習評価に関しては全実習にルーブリック評価を取り入れ、学生の活動を明示し、自主的な学びにつながるようにしている。また、各実習担当教員が、要項を見直し、ルーブリック評価表の評価項目の検討を行っている。

課題

授業評価の実施は行われているがフィードバックの方法の検討が必要である。

今後の方向性、方策など

授業評価の体制を明確にし、フィードバックを確実にし、今後活かせるようにする。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

外来講師に授業評価アンケート結果を活用していただくようにする。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

資格取得の指導体制(国家試験対策)は、カリキュラム内・外で、1年次より計画的に実施している。今後もさらに個々に応じた指導が充実できるよう個々の課題・問題の分析し指導強化していく。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今後も積極的に学会・研究会等への参加を行っていく。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職希望者 36 名、進学希望者 3 名で、就職・進学については、100%である。

国家試験対策として 1 年次から看護師国家試験の出題基準や教科書の活用について説明し、学習の行い方、模試の受け方、振り返りの仕方を指導した。各学年、計画的に模試を行い、結果を振り返りながら学習指導を行った。特に、3 年次には、4 月から学生自身が成績データの自己分析を行い、苦手科目について自覚をもたせた。また、年間計画に沿って指導し、成績不振者については、夏季・冬季セミナーを実施した。適宜面談を行い、保護者との連携を密し学校と家庭との協力体制をとった。また全教員の協力を得て強化学習を行った。最終模試において、目標値をクリアして第109回看護師国家試験に臨むことができた。

3月19日の発表結果は、39名受験36名合格(92.3%)であった。全国合格率は89.2%であった。既卒者は2名受験し2名合格であった。今年度、休学者・退学者はいない。

在校生は、地域のボランティア活動に参加し、社会的な貢献活動を行った。

卒業生は、本校の学校関係者評価委員にも選任され、学校教育の改善に協力してくれた。

課題

国家試験合格 100%を目指す。休学者・退学者0を目指す。

今後の方向性、方策など

きめ細やかな学生対応を実施し、上記課題の達成を目指す。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

対策は十分に図っているが、見直しは行っていく。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

対策は十分に図っているが、結果を分析さらにレベルアップを目指す。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

対策を十分に行い、退学者 0 をめざし今後も努力していく。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今後も学生の活動状況を把握し、記録し保管する。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今年度実施した卒業生アンケート調査結果を学内教育に活用していく。

項目Ⅴ 学生支援

総括

計画的に進路ガイダンスを行い、集団指導・個別指導を行った。学生個々の病院見学の前後には学生より報告を受け、状況把握をしている。学生の就職活動状況を把握し、学科会議・管理会議・運営会議で情報共有を図った。

就職試験に活かすためのマナー講座や就職試験前の面接指導を全員に行い、できるだけ第一希望の就職先への合格を支援した。履歴書作成から発送まで学校長・副学校長・教員が個別に指導を行った。また、進学希望者への個別指導も行い、3名が希望の助産師学校に合格した。

月2回、スクールカウンセラーに來校していただき、カウンセラーへの相談や助言を受けての対応など、専門家の意見を聞きながら支援した。保護者との連携については、7月に2年生の保護者会を開催し、学生の状況報告や相談など保護者と学生を含め面談を行った。さらに各学年、成績不振者や実習状況・進路不安などに対して情報を把握し、迅速に保護者面談及び電話での相談・連絡・報告を行なった。

高校のキャリア教育の受け入れを行った。また、高校訪問しガイダンスを実施した。家族入学割

引制度や教育訓練給付金の活用をしているオープンキャンパスや学校説明会時、修学支援についての情報提供を行った。また、個別相談を行った。

課題

今後も学生支援、高専連携を強化していく必要がある。

今後の方向性、方策など

今後も信頼される学校づくりを行い、高校訪問等で情報交換を行い、さらに高専連携を図っていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおり支援体制は整備されている。今後も継続して支援していく。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生相談に関する体制は十分に整備されている。今後も学生目線でしっかり支援していく。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおり、保護者会の実施や早期の保護者への連絡や面談実施など行い連携を図っている。今後も継続していく。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおり高専連携を実施している。今後も更なる連携強化を図っていく。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

教育訓練給付金制度の対象であるため、社会人にとって大きな支援となっている。

項目 VI 教育環境

総括

施設・設備・機器・備品・図書等は設置基準、関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えている。今年度の新入生が45名だったので、ベッドなどの物品の補充を行い、学ぶ環境を整えた。

最新の情報を得るために、新刊図書や雑誌の購入を行った。学習効果を高めるために定数を増やすことが今後必要である。卒業生に図書室・情報処理室を提供し、個々のスキルアップのために活用している。

実習施設と協力して学習支援ができるよう定期的に指導者会議を開催し、情報交換や学生指導方法について検討を行っている。施設により実習指導の在り方考え方の違いから、学生への影響がないよう、学校と施設の連携を密にとっていった。実習施設が遠方で学生・教員の負担もあるため、昨年は学校近隣の3施設、今年度も3施設を新たに申請した。

防災マニュアルの作成を行い冊子として完成した。8月の豪雨の時、防災マニュアルに基づき対応できた。年に2回消防訓練を実施している。今年度は、第1回目を5月、第2回目を10月に実施した。

課題

指定規則改定や日々進歩する医療事情に対応できるよう、さらに充実を図っていく必要がある。

今後の方向性、方策など

毎年、計画的に購入計画や導入計画を立て充実を図っていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

施設・設備・機器・備品・図書等は設置基準、関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えているが、今後もさらに充実を図っていく。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載のとおり、実習施設と密な連携をとり、実習指導者と共に学生を支援していく。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

マニュアルを活用するとともに、今後も消防訓練等を継続していく。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、高校ガイダンスや高校単位での本校見学・体験授業などの際に、本校の教育方針、資格取得や就職状況など正確に情報提供している。

課題

少子化、高校再編成等が進む中、更なる努力が必要である。

今後の方向性、方策など

今後も、高校・地域から認められる学校を目指し学校運営を行っていくとともに、学校の情報を正確に伝えていく努力を続けていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

パンフレットやホームページ、高校訪問、ガイダンス、学校説明会等の受け入れなど

で情報提供をしている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

国家試験合格率だけでなく、進級率についても正確に伝えることができている。

項目VIII 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校の財務の2重体制をとっており、学校の財務体制管理が行われている。また、決算及び予算について理事会で承認されており、会計監査は適正に実施されている。事業計画に沿って、また両学科との調整を図ったうえで、予算計画を立て運営している。経理より年度の中間と年末に副学校長・事務担当者に収支計算書の提示がある。収支状況を把握し、日々の業務の中で業務改善できるものがないかを検討している。さらに、次年度の事業計画の検討を行っている。

課題

全教職員へ学校経営に関する意識付けを行うためにも、財務に関する情報を伝えていく。

今後の方向性、方策など

中間・年度末の2回、学校長、事務長、両副学校長、経理担当者で確認を行うとともに全職員へも周知させる。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校単独では規模の小さい学校であるが、定員が確保され安定した財政となっている。また、当学校法人においても財政基盤は安定している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

本校単独の予算・収支計画に関しても、両学科・事務と協議し、さらに法人に了承を得たうえで予算の執行を行っており、有効かつ妥当なものとなっている。今後継続していく。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総評に記載のとおり会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令遵守は、法人全体で取り組まれている。具体的には保健師助産師看護師法指定規則および私学専修学校設置基準に遵守している。毎年、①学校基本調査②保健師助産師看護師法施行令第14条に基づく報告③専修学校実態調査での報告を行っている。

個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨地実習における学生の個人情報保護については、SNSの取り扱いも含め指導を徹底している。企業にも協力してもらい、特別講義を行いSNSの使用について注意を促した。

課題

本校はこれまで問題は起こっていないが、社会ではSNSでの情報漏洩、不適切動画の掲載などが問題となっているため、今後も継続して教育指導をしていく必要がある。

今後の方向性、方策など

学生に対するSNSに関する教育、教員・学生に対する個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

個人情報の管理に関する学生・職員教育を今後も継続していく。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

地域の高校や専門職業団体等に施設を貸し出し、貢献している。

また、本校はボランティア活動を推奨しており、地域の清掃活動や、障害者支援、武雄市の行事に学生や教職員が積極的に参加している。ボランティア参加者には、クオカードを配布している。

課題

期末試験や実習等の重要な学事に重ならないボランティアを増やす。

今後の方向性、方策など

地域と連携を図りながら、地域のボランティア情報を入手するとともに、学校独自でも地域の清掃活動など継続していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今後も地域や高校などと連携を図り、社会貢献、地域貢献を行っていく。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今後も学校として、情報収集や参加者へのクオカードのプレゼントなどを実施し、学生のボ

ランティア活動を推奨していく。